

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2013

課題番号：22530376

研究課題名(和文) 複雑な問題の解決者としての企業家：地域再生と企業家

研究課題名(英文) Entrepreneur as a Solver of Complex Social Problems: Regional Regeneration and Entrepreneurs

研究代表者

稲葉 祐之 (INABA, Yushi)

国際基督教大学・教養学部・上級准教授

研究者番号：00363995

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円、(間接経費) 900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は社会問題の解決に際して、経営あるいは事業がどのように貢献できるかを探求した。とりわけ本研究では、企業家のもつ問題解決機能に注目する。実証研究を通じて、企業家たちの創造した新規事業による社会問題の解決機能と解決プロセスを説明する理論的枠組みを構築し、理論的・実践的なインプリケーションを導き出した。さらに共同企業家、そして彼らによる共同問題解決という概念を用いることで、複雑な問題の解決者としての企業家という新たな企業家論のパースペクティブを提示した。

研究成果の概要(英文)：This research pursued how entrepreneurs collaborate to solve social problems in the context of regional regeneration. Introducing concepts of the joint-entrepreneurs and joint problem-solving, this research proposed a new analytical framework and explained detailed process to establish new projects to solve social problems. This research also provided a new perspective on entrepreneurs. There are many explanatory perspectives on entrepreneurship, in this view entrepreneurs are regarded a solver of complex social problems.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：社会問題の解決 社会企業家 ソーシャル・イノベーション 共同企業家 社会問題の共同解決 地域再開発・地域再生 企業家観

1. 研究開始当初の背景

現代社会には、地方経済の衰退・教育・医療福祉・貧困・環境など多くの社会問題、すなわち単一の主体（個人や組織）では解決することのできない「複雑な」問題が存在する。これら複雑な問題の解決は、経営学の分野ではどのように取り扱われ、研究されるのであろうか？本研究はまだ経営学の分野ではまだまだ不十分にしか扱われていない社会問題の解決プロセスを、企業家的な人々（共同企業家）による共同問題解決という概念を用いて分析する（Inaba, 2009）。

本研究では複雑な問題を、「単一の主体（個人や組織）では解決することのできない問題」と定義する。単一の主体レベルでは解決できない社会問題、たとえば地方経済の衰退・教育・医療福祉・貧困・環境等にかんする諸問題がこれにあたる。

本研究では、それらの問題に対して4つの解決のためのモードがあると仮定している（稲葉ほか, 2010）。すなわち複雑な問題は、「市場（交換）」・「政府（権力）」・「慈善（贈与）」・「事業（新しい仕組みの創造と運用）」という基本的なメカニズム（あるいはそれらの組み合わせ）を通して解決されていると考える。そのうえで事業が、市場・政府・慈善団体といった既存の社会問題の解決主体が解決し得なかった「残余問題」を解決するツールであることを示す。社会問題のような複雑な問題の事業を通じた解決は、基本的に単一主体ではなく複数の組織やコミュニティといったレベルでの協働を前提としている。そして、その問題解決プロセスにはマネジメントの要素が多く入り込んでおり、経営学とりわけ組織間協働論と企業家論による分析が必要となる。経営学、そして本研究が社会問題の解決主体と解決プロセスを扱うべき根拠は、この点にある。

2. 研究の目的

本研究は社会問題の解決に際して、経営あるいは事業がどのように貢献できるかを探求する。とりわけ本研究では、企業家のもつ問題解決機能に注目する。実証研究を通じて、企業家たちの創造した新規事業による社会問題の解決機能と解決プロセスを説明する理論的枠組みを構築し、理論的・実践的なインプリケーションを導き出す。さらに共同企業家、そして彼らによる共同問題解決という概念を用いることで、複雑な問題の解決者としての企業家という新たな企業家論のパースペクティブを提示する。

3. 研究の方法

本研究は、複雑な問題の解決プロセスおよび解決の担い手となる共同企業家に注目している。本研究の研究対象となる地域経済の

再生は、現在広く注目されている社会問題であり、それゆえにその解決法の開発が期待されている。

本研究が注目するのは、社会問題の解決を目指す共同企業家および彼らの携わる事業・プロジェクトであり、具体的には北海道小樽市、滋賀県長浜市、岡山県倉敷市、徳島県上勝町、鹿児島県鹿屋市をはじめとする地域再生プロジェクトを念頭に置いている。

本研究で用いられる研究方法論は、詳細な事例分析に基づく定性的研究である。これらの調査を通じて、複雑な社会問題の解決プロセスがいかに進められるかを記述し説明する。また複雑な問題を共同解決する企業家という新たな企業家観を提示し、そのような企業家たちの分析をおこなう。

4. 研究成果

本研究では地域の衰退という社会問題とその解決に焦点をあて、日本の衰退地域の複数の再生事業について、問題の解決に果たす企業家的な人々の役割を調査した。

本研究では、とりわけ市場ベースでは不可能な地域再生事業を、「共同企業家（＝自らの属する組織を超えて協働する複数の企業家的な人々）」が、関係者とともに問題解決コミュニティを形成し、株式会社やNPO、任意団体といった問題解決の中核となる中核組織を設立・運営しておこなわれる問題解決のプロセスを記述・分析した。

本研究の成果は、以下の通りであった。第一に、市場取引でも、政府でも、慈善でも解決し得なかった地域再生という社会問題の解決を、共同企業家と問題解決コミュニティを中心とする、（持続性を持った）事業を通じておこなう共同問題解決で説明するための一つの枠組みを与えたことである。第二に、事例研究を通じて、その問題解決コミュニティ内に特有な共同企業家の活動や共同問題解決を促進するような関係者間の関係様式について詳細に分析を加え、企業家的な人々による「複雑な問題の共同解決」という枠組みで説明した点である。第三に、複雑な問題を共同解決する企業家という共同企業家概念を提示することで、（社会企業家を含む）問題解決者としての企業家という企業観を提示したことである。

これらの成果は学会発表や論文を通じて報告され、共同企業家という概念、そして複雑な問題の共同解決という枠組みの認知向上に資してきた。稲葉（2014）は本研究の成果をまとめた論文だが、共同企業家という企業家の一類型を説明するものとして企業家論の書籍に所収されるなど、企業家論研究の分野への一定の貢献を果たしている。

参考文献

稲葉祐之, 2014. 「共同企業家」, 宮本又郎・

加護野忠男+企業家研究フォーラム 編, 『企業家学のすすめ(仮題)』, 有斐閣, 近刊.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 4 件)

伊藤優・稲葉祐之, 「サービス・ドミナント・ロジックに基づく、独立系中小書店のマーケティング戦略の構築」, 『社会科学ジャーナル』(国際基督教大学社会科学研究所), 査読なし, No.76, 2013, pp.97-120.

LUU, Duc Thi, and Yushi Inaba, External Engagements and Innovation of Firms: Evidence from Vietnamese Manufacturing SMEs, *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute), 査読なし, No. 75, 2013, pp.73-99.

Bian, Zuodong and Yushi Inaba, Validity Analysis of Performance Indicators for Postal Service, *The Journal of Social Science* (International Christian University Social Science Research Institute), 査読なし, No.73, 2012, pp.75-98.

稲葉祐之, 「社会問題の解決原理と企業家: 問題解決者としての企業家」, 『日本ベンチャー学会第14回全国大会 報告要旨集』, 査読なし, 2011, 50-53頁.

[学会発表](計 11 件)

稲葉祐之, 2013. 「共同企業家: 複雑な問題の共同解決と企業家」, 『2013年度企業家研究フォーラム年次大会』, 2013年7月13日, 大阪大学中之島センター.

中川絢子・稲葉祐之, 「シニア企業家の企業経営: 事業継続を可能にする要因」, 『2012年度企業家研究フォーラム年次大会』, 2012年7月8日, 大阪大学中之島センター.

稲葉祐之, 「社会問題の解決原理と企業家: 問題解決者としての企業家」, 『日本ベンチャー学会第14回全国大会』, 2011年11月26日, キャンパスプラザ京都.

稲葉祐之, 「地域におけるソーシャルビジネス: 事業活動を通じた社会問題の解決」,

『専修大学 KS ソーシャル・ビジネス・アカデミー』, 2011年11月10日, 専修大学サテライトキャンパス.

稲葉祐之, 「地域を活かすソーシャルビジネス: 事業活動を通じた社会問題の解決」, 『第13期自治政策講座』(自治体議会政策学会), 2011年10月21日, 国際ファッションセンター(東京都墨田区横綱).

等若菜・稲葉祐之, 「創業期企業家の共同リーダーシップ: 本田技研とソニーの事例から」, 『2011年度企業家研究フォーラム年次大会』, 2011年7月16日, 大阪大学中之島センター.

稲葉祐之, 「地域産業とソーシャル・イノベーション」, 『専修大学大学院公開講座 ソーシャル・ビジネスの課題と展望』, 2010年11月19日, 専修大学.

稲葉祐之, 「企業家、イノベーションと都市産業の高度化: なぜ大坂は『天下の台所』となったのか」, 『第2回神戸ビジネスシステム・コンファレンス』, 2010年8月21日, 神戸大学.

稲葉祐之, 「社会問題の解決と企業家: 滋賀県長浜市の事例」, 『専修大学社会知性開発研究センター研究会』, 2010年7月24日, 専修大学サテライトキャンパス.

稲葉祐之, 「企業の収益性と社会性: 社会的企業家の事例から」, 『2010年度企業家研究フォーラム年次大会』, 2010年7月17日, 大阪大学中之島センター.

Inaba, Yushi, *Entrepreneurs and Inter-organizational Collaboration for Social Problem-solving: Comparison with the market, the government, and the charity*. The 17th International Conference on Multi Organizational Partnerships, Alliances and Networks at Keele University, Keele, United Kingdom, 30/6/2008

[図書](計 4 件)

稲葉祐之, 有斐閣, 「共同企業家: 複雑な問題の解決者としての企業家」, 宮本又郎・加護野忠男+企業家研究フォーラム 編 『企業家学のすすめ: 学問の垣根を超えて「企業家」に迫る』, 2014, 近刊.

尾川丈一, 稲葉祐之, 木村琢磨(共訳), 白桃書房, 『組織セラピー: 組織感情への臨床アプローチ』, 2014, 180頁(原著:

Schein, Edgar H., Joichi Ogawa, and D. Stephenson Bond, 2009. *Organizational Therapy: Multiple Perspectives*. North Andover: Alternative Views Publishing.)

石井真一・稲葉祐之, 硯学舎, 「国際化のマネジメント」, 加護野忠男・吉村 典久 編著 『1からの経営学』第2版, 2012, 163-185頁.

稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝, 有斐閣, 『キャリアで語る 経営組織: 個人の論理と組織の論理』, 2010, 406頁.

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

ICU 教員情報:

<http://researchers.icu.ac.jp/Profiles/5/0000437/profile.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲葉 祐之 (INABA, Yushi)

国際基督教大学・教養学部・上級准教授
研究者番号: 00363995

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし